

# 小郡前伏遺跡2

－福岡県小郡市小郡所在遺跡の調査報告－

小郡市文化財調査報告書第257集

2011

小郡市教育委員会



## <序 文>

福岡県の中部に位置する小郡市は、九州における交通の要衝として発展し続けてきました。小郡官衙遺跡や上岩田遺跡、隣接する大刀洗町の下高橋官衙遺跡など古代の役所跡、また周辺で見つかる官道の存在は、こうした位置付けが古代においてもなんら変わることがなかったことを物語っています。

今回報告いたします「小郡前伏遺跡2」の調査では、範囲も限られた小規模な調査ではありましたが、官衙を取り巻く周辺の集落の一端を確認することができました。

残念ながら遺跡は開発と引き換えに消失することになりましたが、本書及び収録した資料が、文化財保護への理解と認識を深める一助として、また研究資料の一環として広く活用されれば幸いです。

最後に、地権者の稻付文明さん、さらには調査にご理解とご協力をいただいた周辺住民の皆様、そして現地作業にあたった地元作業員の皆様など、発掘調査を進める際にお世話になった多くの方々に感謝を申し上げ、序文といたします。

平成 23 年 3 月 31 日

小郡市教育委員会  
教育長 清武 輝

## <例 言>

1. 本書は、小郡市小郡地内における共同住宅建設に伴い、小郡市教育委員会が発掘調査を行った小郡前伏遺跡2の報告書である。
2. 小郡前伏遺跡2は小郡市前伏 248-5 に所在する。
3. 調査期間は、平成 21 年 9 月 1 日から同月 29 日まで実施した。
4. 調査面積は、153 m<sup>2</sup>である。
5. 本調査は、坂井貴志が行った。
6. 遺構の実測は山崎頼人の協力を得て、坂井が行った。
7. 遺構の個別写真撮影は坂井が行い、遺跡全景写真は（有）空中写真企画に委託した。遺物写真的撮影は㈲文化財写真工房・岡紀久雄氏に委託した。
8. 遺物の復元・実測・製図には、白木千里、衛藤知嘉子、佐々木智子、原野照子、井上千代美、永倉さゆみ、林田和也、長野智恵子ら諸氏の多大なる協力を得た。
9. 本書に記載した遺構略号は、C：堅穴住居跡、K：土坑、P：ピットである。
10. 遺構実測図中の方位は座標北を示し、図上の座標は国土座標第II系（世界測地系）に則している。
11. 遺物・実測図・写真は、小郡市埋蔵文化財調査センターにて保管・管理している。
12. 本書の執筆・編集は、坂井が行った。

## <本文目次>

第1章 調査の経過と組織	1
第2章 位置と環境	1
第3章 調査の内容	
1 調査の概要	4
2 遺構と遺物	
(1) S C : 穫穴住居跡	4
(2) S K : 土坑	7
(3) S P : ピット	9

## <挿図・表目次>

第1図 周辺遺跡分布図 (S = 1/25,000)	2
第2図 小郡前伏遺跡2 調査区位置図 (S=1/5,000)	2
第3図 小郡前伏遺跡遺構配置図 (S=1/80)	3
第4図 SC - 1・2 実測図 (S=1/40)	5
第5図 SC - 3、4 実測図 (S=1/40)	6
第6図 穫穴住居跡出土土器実測図 (S = 1/4)	7
第7図 SK - 1・2 実測図 (S=1/40)	8
第8図 SK - 3、4 実測図 (S=1/40)	9
第9図 土坑出土土器実測図 (S=1/4)	9
第10図 SP - 35 出土土器実測図 (S=1/2)	10
第11図 出土石・鉄製品実測図 (S=1/2)	10
第1表 出土遺物観察表	10

## <図版目次>

図版1 調査区より北を望む・調査区全景	
図版2 S C - 1・2、3 土層断面・完掘状況、SC - 4 完掘状況、SK - 1 土層・完掘状況	
図版3 SK - 2、3 土層・完掘状況	
図版4 小郡前伏遺跡2 出土遺物	

## 第1章 調査の経過と組織

小郡前伏遺跡2の調査は、個人住宅建設に先立ち平成21年7月27日付で小郡市教育委員会に対して埋蔵文化財の照会があつたことに端緒とする（審査番号9027）。照会を受けて、同年8月4日に試掘調査を行つた結果、遺構が確認されたため埋蔵文化財に関する調整が必要となつた。協議の結果、建物の基礎部分が遺構面まで達するため、遺跡に影響を与える範囲153m<sup>2</sup>を発掘調査し、記録保存を図ることとなつた。

現地での発掘調査は、9月1日より重機により表土剥ぎを行い、3日より作業員を導入、遺構の検出と掘り下げを順次行った。15日には調査区全体の空中写真撮影を行い、25日には重機による埋め戻しを行い、29日に現地作業を終了した。

調査体制は以下の通りである。

### <調査組織>

平成21・22年度 小郡前伏遺跡2

#### 小郡市教育委員会

教育長 清武 輝

教育部長 高木 良郎（平成21年度）

河原 寿一郎（平成22年度）

文化財課 課長 田篠 千代太

係長 片岡 宏二

嘱託技師 坂井 貴志

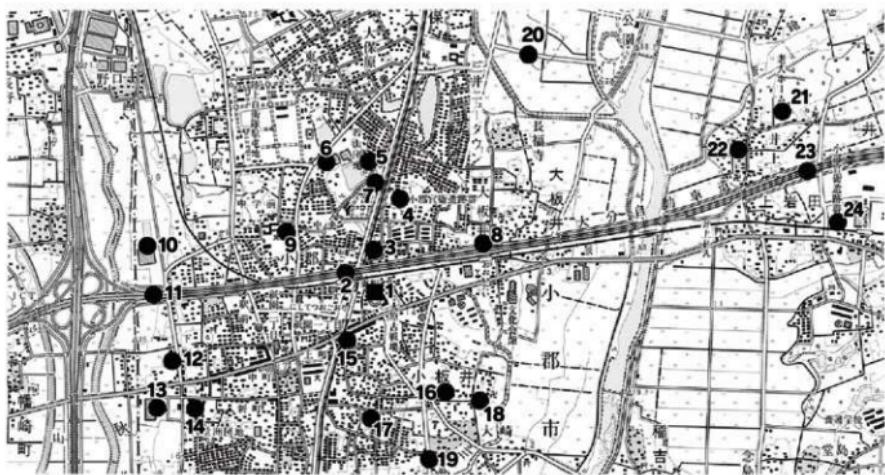
### <発掘作業従事者>

横田 雅江、草場 誠子、土井 久江、松田 徳代、田中 賢二、中村 国義

## 第2章 位置と環境

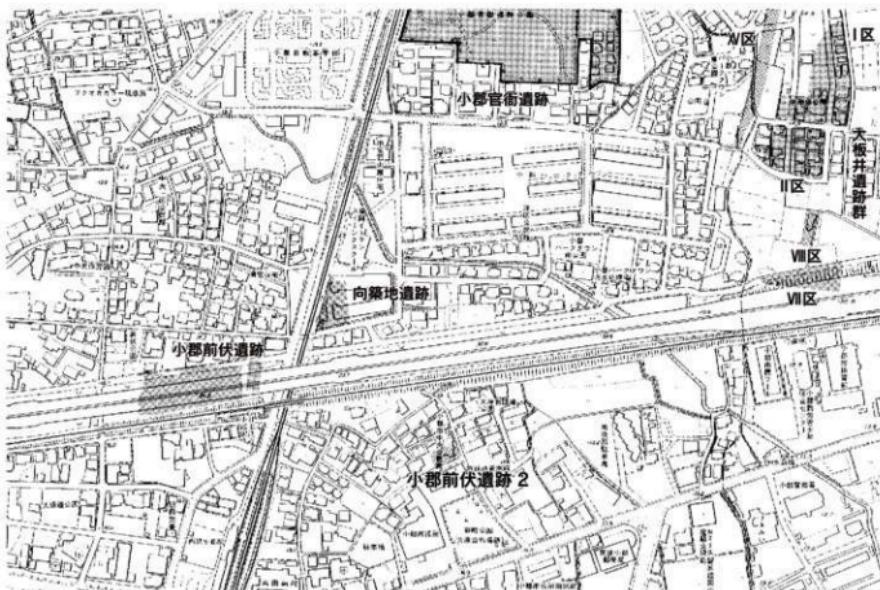
小郡前伏遺跡2は、小郡市街地のちょうど中心部に位置し、周囲は住宅密集地である。当地周辺では、市内でも主要な遺跡がいくつか調査されている。まず、北に約1kmの西鉄大牟田線の線路東側には国指定史跡の「**小郡官衙遺跡**」(4)が所在し、7世紀中・後半～8世紀中・後半にかけてのⅢ期にわたる官衙遺構の変遷が明らかにされ、古代筑後國御原郡の郡衙跡に比定されている。**小郡官衙遺跡**周辺では正倉群【**大板井遺跡X区** (8)】、集落【**向築地遺跡** (3)】、官道【**小郡前伏遺跡** (2)】、周縁地における版築状盛土による造成跡【**大板井遺跡18B区** (8)】など、様々な関連遺構がこれまでに確認されている。

**小郡官衙遺跡**の線路を挟んだ西側には**小郡若山遺跡** (5)が所在する。これまでに6区に渡って調査が行われており、この内、**小郡若山遺跡3**では弥生時代中期前半～中頃にかけての集落が調査され、集落内より多鈕細文鏡2面を埋納した土坑が検出されている。**小郡官衙遺跡・小郡中尾遺跡** (6)・**大板井遺跡**でも同時期の大規模な集落が確認されており、当地周辺における拠点集落の存在が示唆される。弥生時代中期以降は、弥生時代後期と7～8世紀に集落形成のピークが見られるが、**小郡若山遺跡**でもこれまでに小郡官衙併行期の遺構が確認されており、その関連が注目されるところである。

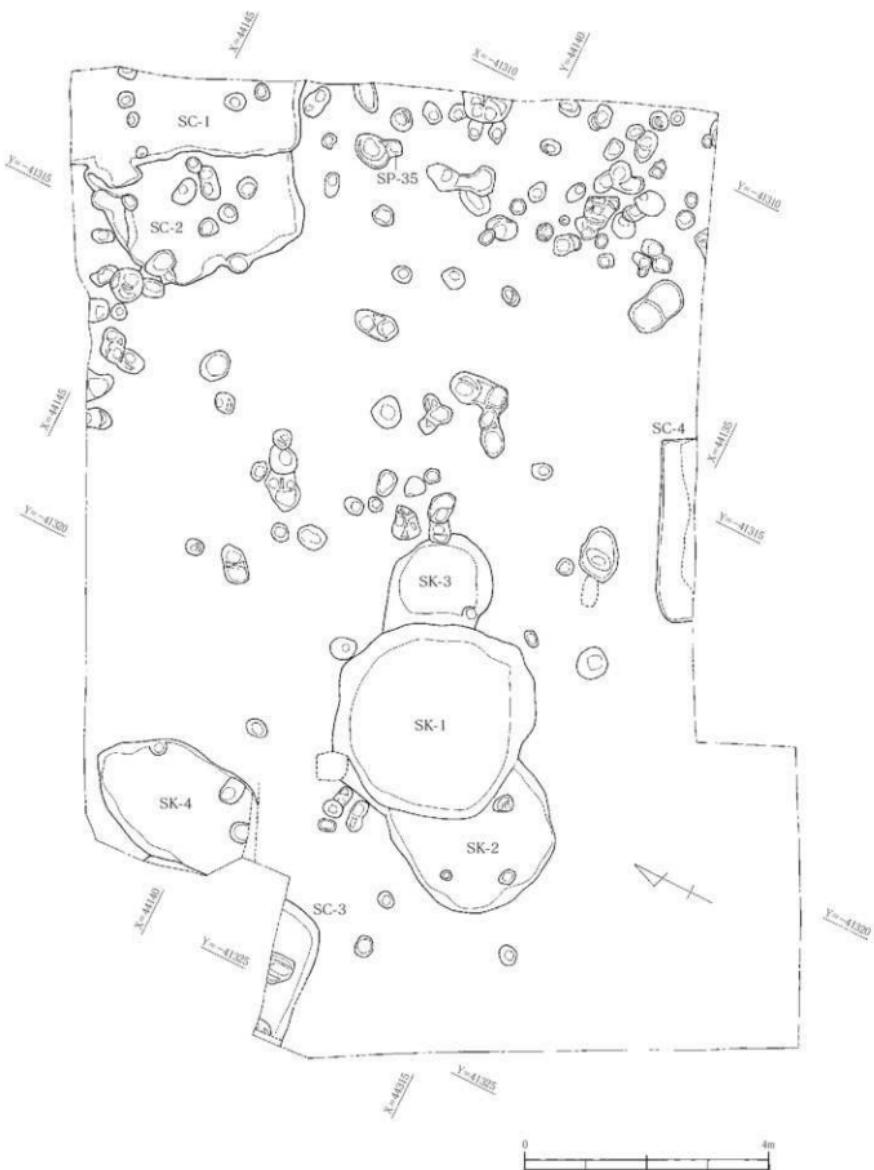


1. 小郡前伏2 2. 小郡前伏 3. 小郡向築地 4. 小郡官衙 5. 小郡若山 6. 小郡中尾2 7. 小郡向築地2  
 8. 大板井 9. 小郡中尾 10. 小郡川原田 11. 小郡正尻 12. 小郡野口 13. 福童山の上 14. 小郡堂の前  
 15. 小板井京塚 16. 小板井轢輪2 17. 大崎井牟田 18. 小板井屋敷 19. 大崎小園 20. 大保横枕  
 21. 井上南内原 22. 井上磨寺 23. 井上薬師堂 24. 上岩田

第1図 周辺遺跡分布図 (S = 1 / 25,000)



第2図 小郡前伏遺跡2 調査区位置図 (S=1 / 5,000)



第3図 小郡前伏遺跡2 遺構配置図 (S = 1/80)

## 第3章 調査の内容

### 1 調査の概要

遺跡は、標高 16.20 m 前後、遺構検出面で 15.80 m 前後の低位段丘上に位置する。周辺は住宅密集地で大きく削平を受けており、当該地は周囲より 1 段高い、わずかに遺構面が残された場所にあたる。

遺構検出面は、暗茶褐色のローム層である。全体的に削平を受けているため、造成土の直下が遺構面となる。調査区の遺構検出面までの深さは西側で約 15cm、東側で約 50cm と東に向けて緩やかに傾斜する。

検出した遺構は、堅穴住居跡 4軒、土坑 4基、ピット多数である。

遺物は、土師器・須恵器を主体としており、石器・鉄製品も数点出土した。

### 2 遺構と遺物

#### (1) 堅穴住居跡 【SC】

##### SC-1 (第3図、図版2)

SC-1は調査区北東コーナーに位置し、SC-2を切る。約 1/2 が調査区外に及ぶため全体の規模は不明である。床面までの深さは、約 20cm 程度で、その下に約 5cm ほどの貼床が施される。主柱穴は 2 本確認された。

##### 出土遺物 (第6・11図、図版4)

1～3は土師器である。1はほぼ完形の壺で、浅く、斜め上方に屈曲して立ち上がる。口径は 20.6cm を測る。2は椀で、外面下半はヘラケズリで調整する。口径 15.4cm を測る。3は高壺脚部である。壺部との接合部分には粘土を充填した痕跡が確認できる。4・5は須恵器である。4は高壺脚部で、復元口径 10.4cm を測り脚先端部はやや難な調整である。5は壺身で、復元口径 9.8cm と小型である。第 11 図 1 は砂岩製砥石である。底面は4面残存する。

##### SC-2 (第4図、図版2)

SC-2は、調査区北東に位置し、SC-1に切られる。壺ではあるが、南辺が約 3m と完存している。床面までの深さは約 27cm 程度である。その下に部分的に 1cm 程の薄い貼床が施される。遺構内には多数のピットが検出されたが、どれが主柱穴となりうるかは不明である。SC-1 で調査区壁に掛かるように検出されたものが柱穴となり得るかもしれない。

##### 出土遺物 (第6図、図版4)

6は甕である。口縁部が強く外反し、内面は強いケズリを行い稜が付く。復元口径 20.0cm を測る。7はやや深みのある椀である。器壁は薄く、精良な胎土を用いる。復元口径 16.3cm を測る。

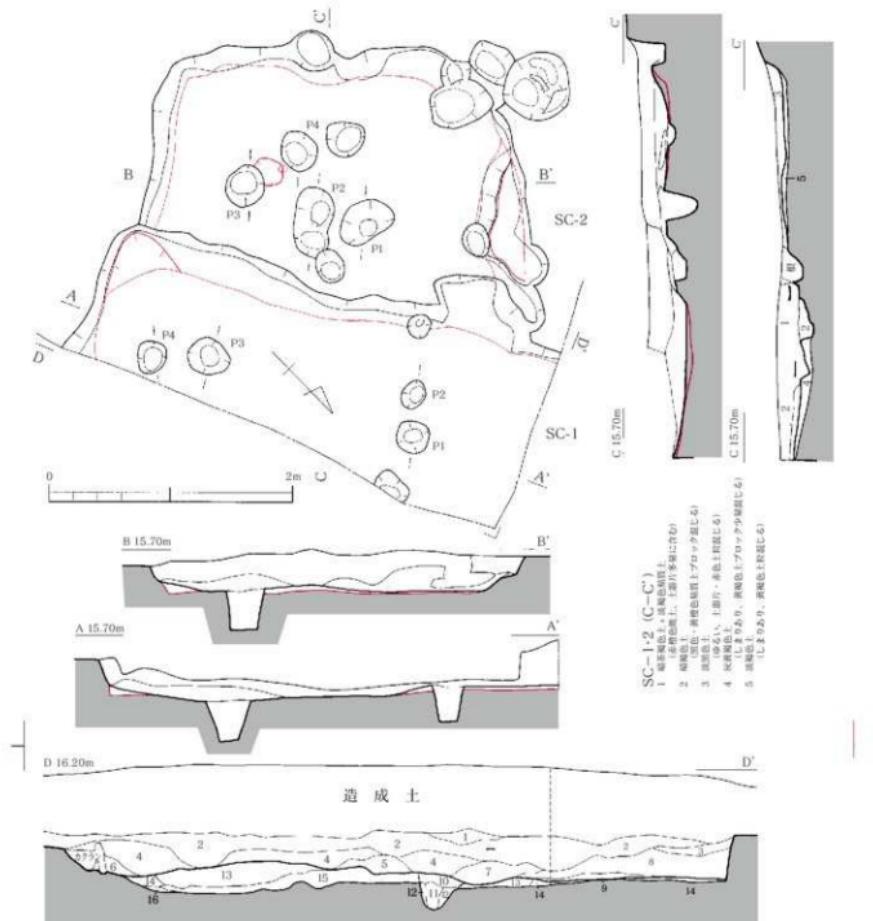
##### SC-3 (第5図、図版2)

SC-3は、調査区西端にて検出された、SK-4を切る住居である。断片的な検出であるため詳細は不明であるが、東辺が約 3m に復元できる。床面までの深さは約 25cm である。その下に部分的に 3cm 程度の貼床が施される。主柱穴の確認はできていない。

土師器甕小片の出土があつたが、図化するに至らなかつた。

##### SC-4 (第5図、図版2)

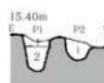
SC-4は調査区南端にて検出した。大部分が調査区外のため詳細は不明であるが、残存する北辺は約



#### SC-1・2 (D-D')

- |                                |                                    |                                   |
|--------------------------------|------------------------------------|-----------------------------------|
| 造成土 (黒褐色土、岩塊物混在、礫等多量に入る)       | 6 黄褐色土 (ゆるい、φ~3cmの黄褐色土ブロック少量混じる)   | 12 黑褐色土 (ややしまりあり、黄褐色土と少量混じる)      |
| 1 黄褐色土 (岩質、砂利を少量含む)            | 7 黑褐色土 (ややしまりあり、φ~5mmの黄褐色土粒均一に混じる) | 13 黑褐色土 (ややしまりあり、黄褐色土ブロック多量に混じる)  |
| 2 黄褐色土 (岩質、土礫片多量に含む)           | 8 " " (φ~4cmの黄褐色土ブロック大量に混じる)       | 14 黄褐色土 (ややしまりあり、黄褐色土ブロック少量混じる)   |
| 3 黄褐色土 (均質)                    | 9 " " (まろやか、黄褐色土粒多量に混じる、土礫片中量含む)   | 15 黑褐色土 (しまりあり、黒褐色、黄褐色ブロック多量に混じる) |
| 4 " " (粗粒に混じるが、φ~2mmの砂利を多量に含む) | 10 黄褐色土 (ややしまりあり、砂利わずかに混じる)        | 16 黑褐色土 (よくしまる、黄褐色土粒わずかに混じる)      |
| 5 黄褐色土 (中やしまりあり、黄褐色土粒少量混じる)    | 11 黄褐色土 (しまりあり、黄褐色土ブロック少量混じる)      | ※10~12はSC-2ビット、13~16はSC-1ビット。     |

#### SC-1



#### SC-2



#### SC-1 ビット

- P-1・2  
1 黄褐色土・岩塊・  
海綿状物質  
(よくしまる)  
2 黑褐色土・黄褐色土  
ブロック  
(中やしまりあり)

#### P-3

- 1 黄褐色土・黒・褐色土  
岩塊ブロック  
(まろやかあり)

#### P-4

- 1 黄褐色土・  
2 岩塊・黄褐色粘土  
(地山と互層)  
2 黄褐色土・  
褐黄色・  
褐黄色ブロック  
(ややしまりあり)

#### SC-2 ビット

- P-1  
1 黄褐色土  
(ややしまり)  
2 岩塊・  
黄褐色粘土  
ブロック

#### P-2

- 1 黄褐色土 (ややい,  
少、黄褐色土多量  
含む)  
2 岩塊・  
黄褐色粘土  
ブロック

#### P-3

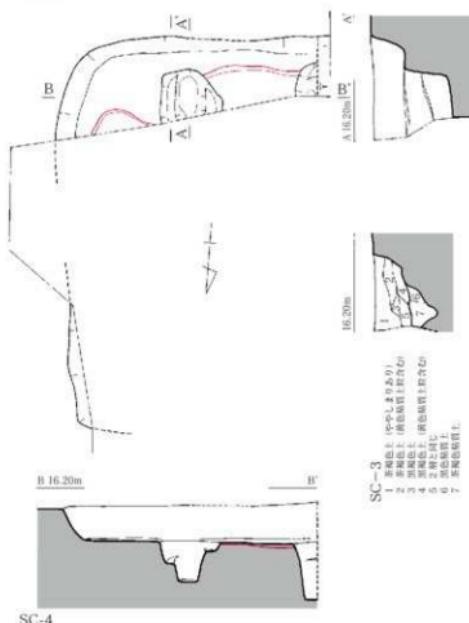
- 1 黄褐色土 (ややい,  
少、黄褐色土多量  
含む)  
2 岩塊・  
黄褐色土  
ブロック

#### P-4

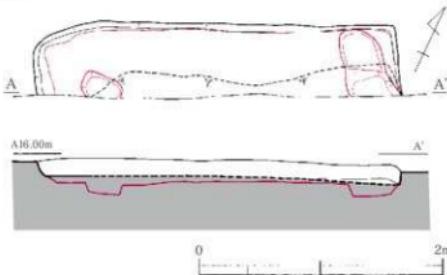
- 1 黄褐色土  
2 岩塊・  
黃褐色土  
粘土ブロック

第4図 SC-1・2 実測図 (S=1/40)

SC-3



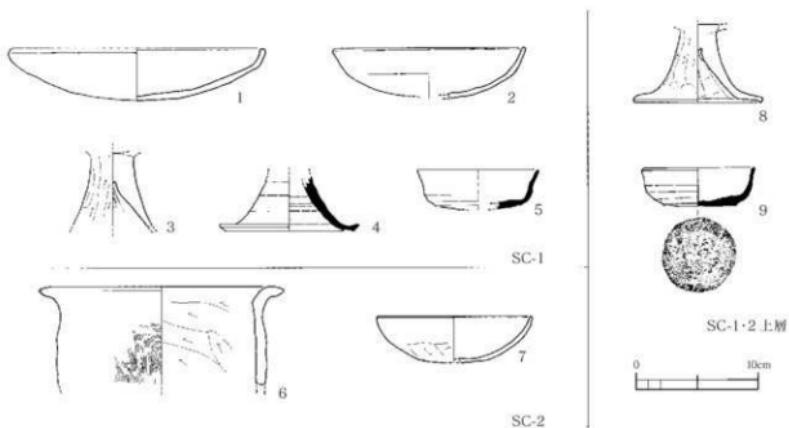
SC-4



第5図 SC-3、4実測図 (S = 1/40)

3mを測る。床面までの深さは約12cmである。その下に4cm程度の貼床が部分的に施されるが、旧建物の基礎ガラが入るため詳細は不明である。主柱穴の確認はできていない。

遺物の出土はない。



第6図 積穴住居跡出土土器実測図 (S=1/4)

## (2) 土坑 【SK】

### SK-1 (第7図、図版2)

SK-1は調査区中央西寄りにて検出した土坑である。SK-2・3を切る。上端は $3.5 \times 3.3$ mの円形を呈する。断面形は逆台形で、底面は平坦である。検出面から底面までの深さは約30～50cmを測る。上層～下層までまんべんなく遺物の出土があったが、所属時期は混在している。廃棄土坑かと思われるが、土層観察では掘り込み等の確認はできなかった。

### 出土遺物 (第9・11図、図版4)

第9図1・2・3は上層、4・5は底面上にて出土した。1・2は土師器壺である。いずれも精製品で1は復元口径13.6cm、2は12.6cmを測る。内外面とも回転ナデ、底部外面はヘラケズリ後ナデで調整する。3は甕口縁部で、強く外反する。復元口径22.5cmを測る。4は須恵器壺蓋で、径が1.8cmのやや扁平な宝珠形の撮みが付き、天井部は平坦である。5はハソウの破片で、古い様相を示すものと思われる。第11図2は底面直上で出土した鉄製の刀子である。片側に闇を持つもので、身部は一部欠損する。身部の厚さ2.0mmで、かなり砥ぎ減りをする。

### SK-2 (第7図、図版3)

SK-2は調査区中央西寄りにて検出したSK-1に切られる土坑である。本来は、短軸2.5m程の楕円形を呈するものと思われる。検出面から底面までは25cm程度と浅い。

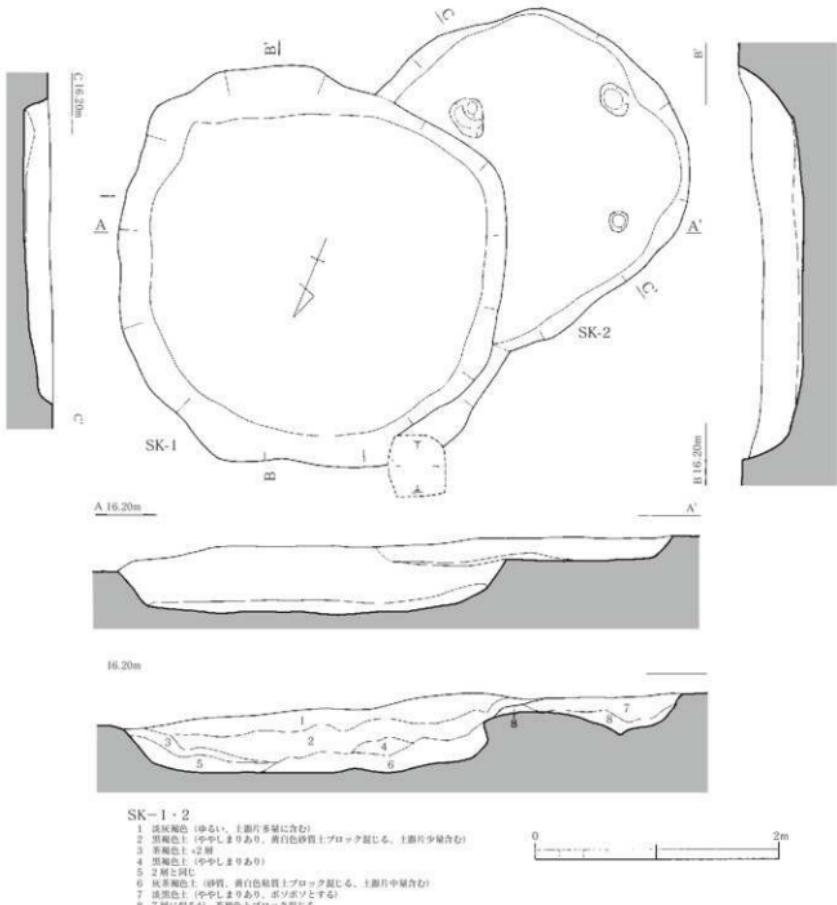
土師器の壺が1点出土した。

### 出土遺物 (第9図、図版4)

6は土師器壺である。内外面とも回転ナデで調整される。底部外面はヘラ切り後ナデ調整。復元口径14.6cmを測る。

### SK-3 (第8図、図版3)

SK-3は調査区中央に位置し、SK-1に切られる土坑である。現況 $1.68 \times (1.5)$ mを測り、本来は東西に長い楕円形を呈するものと思われる。検出面から底面までの深さは約20～40cmを測る。断面はU字



第7図 SK-1・2実測図 (S=1/40)

形である。

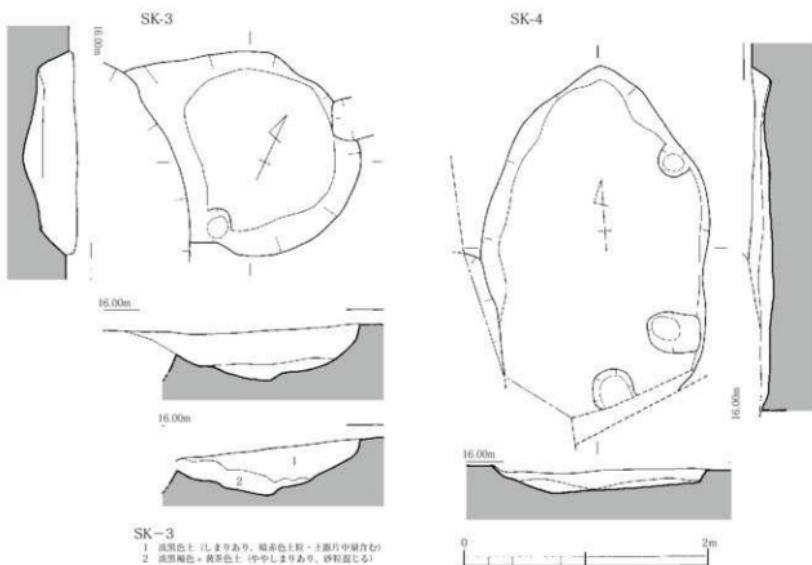
土師器小片の出土があつたが、図化するに至らなかつた。

#### SK-4 (第8図)

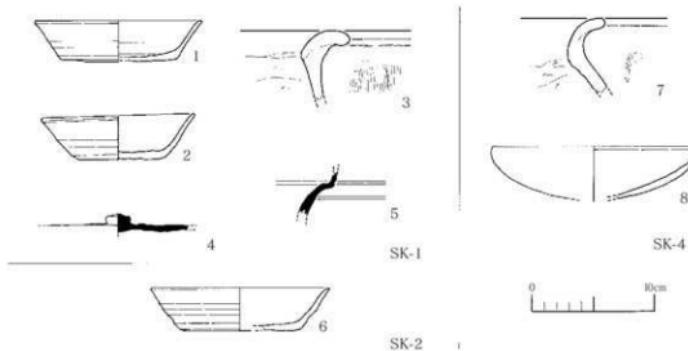
SK-4は調査区北壁際にて検出した土坑である。SC-3に切られる。建物基礎跡により切られるため詳細は不明であるが、現況 (2.8) × 1.8 mの楕円形を呈する。検出面から底面までの深さは約20cmを測る。

#### 出土遺物 (第9図)

7は土師器甕。口縁部は強く外反し、内面は強いヘラケズリを行い稜ができる。8は壺で、復元口径16.8cmを測る。口縁と底部の境が明瞭でなく口縁は短く立ち上がる。



第8図 SK-3、4実測図 ( $S = 1/40$ )



第9図 土坑出土土器実測図 ( $S = 1/4$ )

### (3) ピット【SP】

今調査では、東部を中心多くピットが検出されたが、その多くが旧建物敷地内の庭木の跡であった。遺物の出土はあったものの、下記のSP-35にて出土したもの以外は、小片のため図化するに至っていない。

### SP-35 (第3図)

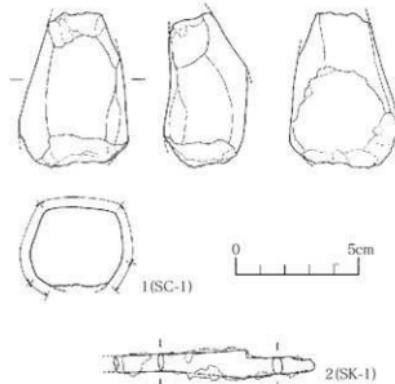
調査区東壁際にて検出された。SP-36に切られる。径25cmの円形を呈し、検出面から底面までの深さは45cmを測る。

### 出土遺物 (第10図、図版4)

須恵器壺蓋である。暗灰色を呈し、内外面とも回転ナデ、天井部外面はケズリ後ナデ調整を施す。復元口径は8.6cmを測る。



第10図 SP-35 出土土器実測図  
(S=1/2)



第11図 出土石・鉄製品実測図 (S=1/2)

第1表 出土遺物観察表

出土 遺物 番号	種類 番号	周囲 番号	種類	面種	法量(cm)			色調	地土	種成	成形・調型	備考
					口径	底径	厚さ					
SC-1	6-1		土師	坪	20.6	—	1.3	内外：緑～黄褐色	精良	良好	口：ヨコナデ 外：ケズリ後ナデ 内：丁寧なナデ	
	6-2		土師	坪	15.4	—	1.3	内外：赤褐色	精良	良好	口：ヨコナデ 外：ケズリ後ナデ 内：丁寧なナデ	
	6-3		土師	高坪	—	—	—	内外：緑色	φ～3mmの砂粒含む	良	外：ケズリ 内：ナデ	
	6-5		埴	高坪	9.8	—	1.2	内外：灰褐色	精良	やや硬	内外：回転ナデ 逆剥外表面：ヘラケズリ	
	6-4		埴	高坪	—	(10.0)	—	内：灰褐色 外：暗褐色	精良	堅韌	内：工具ナデ 外：回転ナデ	
SC-1-2	6-8		土師	高坪	—	16.2	—	内外：淡褐色	φ～1mmの砂粒含む	良好	内：ヘラケズリ 外：ヘラケズリ 製造記：青オニユ・ナデ	
	6-9		埴	高坪	9.3	5.95	3.2	内外：灰白～暗褐色	φ～2mmの砂粒多く含む	堅韌	内：回転ナデ 逆剥外表面：ケズリ後ナデ	
SC-2	6-6		土師	甕	(20.0)	—	—	内外：赤褐色	φ～2mmの砂粒含む	良	口内外：ヨコナデ 内：ヘラケズリ 外：ハケ後ナデ	
	6-7		土師	坪	(12.5)	—	—	内外：緑色	精良	良	内：丁寧なナデ 口外表面：ヨコナデ 逆剥外表面：ヘラケズリ	
HK-1	9-1		土師	坪	13.6	3.3	9.8	内外：淡褐色	精良	良好	内：回転ナデ 逆剥外表面：ケズリ後ナデ	
	9-2		土師	坪	12.6	3.7	—	内外：淡褐色	φ～2mmの砂粒少く含む	良好	内：回転ナデ 逆剥外表面：ケズリ後ナデ	
	9-3		土師	甕	(22.5)	—	—	内外：緑～赤褐色	φ～3mmの長石粒多く含む	良	口内外：ヨコナデ 内：ヘラケズリ 外：ハケ後ナデ	
	9-4		埴	高坪	—	—	—	内外：灰褐色	φ～2mmの砂粒多く含む	堅韌	ツバ：ナデ 外：ケズリ後ナデ 内：回転ナデ	
	9-5		埴	ハツワ	—	—	—	内：灰色 外：灰褐色	精良	堅韌	内：回転ナデ	
HK-2	9-6		土師	坪	(14.6)	3.85	(9.8)	内外：緑色	φ～1mmの砂粒含む	良	内：回転ナデ 逆剥外表面：ケズリ後ナデ	
	9-7		土師	甕	—	—	—	内外：淡褐色	φ～2mmの砂粒多く含む	良	口内外：ヨコナデ 内：ヘラケズリ 外：ハケ後ナデ	
SK-1	9-8		土師	坪	(16.8)	—	—	内外：黄褐色	精良	やや硬	堅韌に上部不明	
	10		埴	高坪	(8.6)	—	—	内外：緑灰褐色	φ～2mmの砂粒少く含む	堅韌	内：回転ナデ 口外表面：ヘラケズリ後ナデ	

出土 遺物 番号	種類 番号	周囲 番号	材種	面種	法量(cm)			備考
					周長	厚さ	幅	
SC-1	11-1		砂岩	板岩	(4.1)	1.45	3.3	鏡面6面鏡

出土 遺物 番号	種類 番号	周囲 番号	器種	法量(cm)	備考			
					底径	身(1.2)	身(2.5)	
SK-1	11-2		刀子	8.15×3.65×3.33	8.15	3.65	3.33	片開、身部は底が纏めする

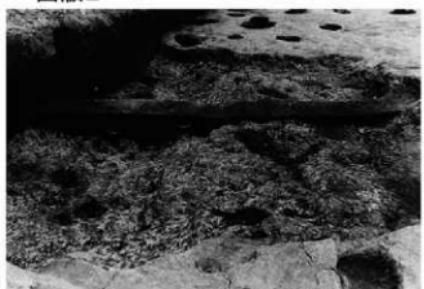


調査区より北を望む



小郡前伏遺跡2全景

図版2



①SC - 1・2 土層 (C - C')



②SC - 1・2 土層 (D - D')



③SC - 1・2 完掘状況



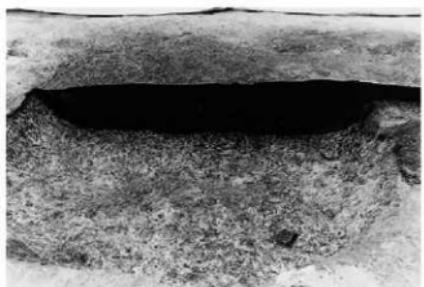
④SC - 3 土層



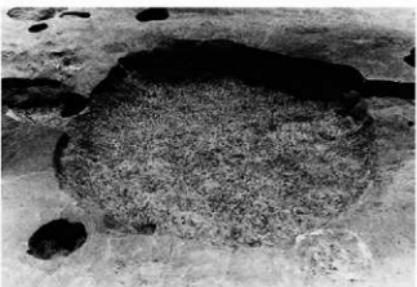
⑤SC - 3 完掘状況



⑥SC - 4 完掘状況



⑦SK - 1 土層



⑧SK - 1 完掘状況

図版3



①SK - 2 土層



②SK - 2 完掘状況



③SK - 3 土層

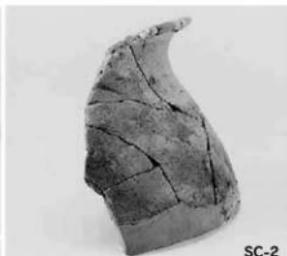


④SK - 3 完掘状況

図版4



SC-1  
6-1



SC-2



SK-1  
9-1



SC-1  
6-2



SC-1.2上層  
6-8



SK-1  
9-2



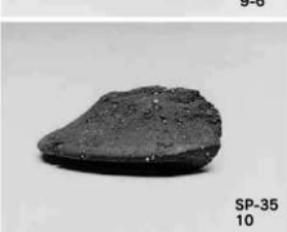
SC-2  
6-6



SC-1,2上層  
6-9



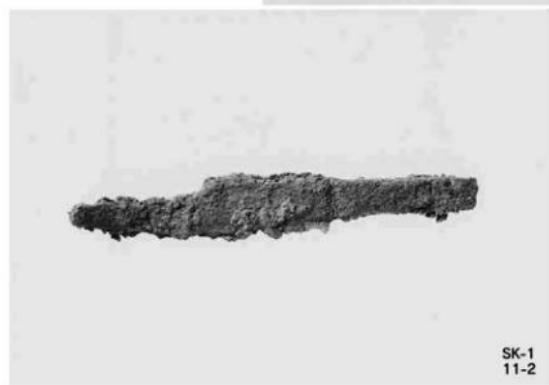
SK-2  
9-6



SP-35  
10



SC-1  
11-1



SK-1  
11-2

報告書抄録								
ふりがな	おごおりまえぶせいせき2							
書名	小郡前伏遺跡2							
副書名								
巻次								
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第257集							
編著者名	坂井 貴志							
編集機関	小郡市教育委員会 小郡市埋蔵文化財調査センター							
所在位置	〒 838-0106 福岡県小郡市三沢 5147-3 TEL 0942 - 75 - 7555							
発行年月日	平成 23 年 3 月 31 日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	北緯 遺跡 番号	東経	調査期間	調査面積	調査原因	
おごおりまえぶせい 小郡前伏 いざさ 遺跡2	ふくおかん 福岡県 おごおりし 小郡市 小郡	40216		33° 23' 50"	130° 33' 21"	2009.9.1 ～ 2009.9.29	135 m <sup>2</sup>	個人住宅建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
小郡前伏 遺跡2	集落	古代	堅穴住居 土坑 ピット群	土師器 須恵器 石器 鉄器				
小郡前伏遺跡2は、小郡市の中心部、宝満川西岸の低台地縁辺部、標高16m前後に立地する。調査の結果、堅穴住居跡4軒、土坑3基、廃棄土坑1基を検出した。時期は7世紀中～後半頃に属する。廃棄土坑において時期を異にする遺物が混在するが、8世紀後半頃が上限となろう。								

## 小郡前伏遺跡2

小郡市文化財調査報告書第257集

平成23年3月31日

発行 小郡市教育委員会

小郡市小郡255-1

出版 アーネスト

小郡市小郡845-3

